東日本大震災

仙台市 震災記録誌

～発災から１年間の活動記録～

平成２５年３月

仙　台　市

発刊に寄せて

東日本大震災の発生から２年が経過いたしました。

本市では、昨年３月、現場で撮影された写真とともに震災対応を振り返る「『東日本大震災　１年の記録』ともに、前へ、仙台」を発刊しましたが、このたび、地震発生からの１年間における仙台市の活動等を、様々なデータと共に取りまとめ、「震災記録誌」という形で発行する運びとなりました。

これにより、私どもが今回の震災で体験した貴重な体験・教訓を次世代へと伝え、次の災害への備えとするとともに、行政機関を中心とする国内外の多くの方々にご紹介させていただき、何らかのお役に立つことができればと考えております。

仙台市は、30～40 年周期の宮城県沖地震の発生に備え、昭和 53 年（1978 年）に発生した宮城県沖地震などを教訓として様々な震災対策を講じてきましたが、未曾有の大震災の前では、私たちの取組みは十分ではありませんでした。

また、高齢化や地縁の変化等の時代状況に加え、発災に伴うエネルギー不足や帰宅困難者の発生など、都市型震災における新たな課題も生じました。

そのような中、地震の発生直後より、住民の避難誘導や救助、避難所の運営、各種支援制度の運用、がれきの処理、応急仮設住宅の設置などに全力で対処してきましたが、事前の準備が功を奏したものもある一方、試行錯誤というべき場面も多々あったというのが実感です。私は、この震災において、仙台市が当初どのような想定・準備をしていたのか、実際には何が起こり、どのように対応したのか、その全てが貴重な教訓となるものと考え、発災の初期段階から、職員に対し震災対応業務に関連する様々な記録を残すよう指示してきました。

結果として記録が十分に残っていない分野もありますが、そのことも含め、広く情報を公開することが重要と考え、編纂に取り組んできたところでございます。

本誌の発刊にあたりまして、貴重な資料のご提供をはじめ、ご協力をいただきました皆さまに心より感謝申し上げます。また、本誌の作成・出版にあたりましては、富士通株式会社様並びに株式会社富士通総研様に多大なご支援をいただきましたことに感謝の意を表します。

平成 25 年３月 11 日

仙台市長　奥山　恵美子

被害状況

荒浜小学校上空から南西方向を見る。市消防局のヘリコプターが状況把握を続ける

巨大な波が防潮林をなぎ倒し、若林区藤田の集落に襲い掛かる

用水路をさかのぼる津波（若林区藤田付近）

津波により孤立した荒浜小学校では、生徒や教師、地域住民が屋上で助けを待った

ヘリポートのある荒浜航空分署。写真右が太平洋

左側のシルエットが荒浜小学校

若林区荒浜付近から名取市閖上方面を見る（若林区三本塚付近）

若林区三本塚付近

ガス局港工場（15 時 52 分）

津波に飲まれるガス局港工場周辺

目前に迫るコンビナート火災

南蒲生浄化センター（15 時 53 分）

南蒲生浄化センターに押し寄せる津波

南蒲生浄化センター（16 時 00 分）

南蒲生浄化センター（16 時 01 分）

中野小学校。児童、教職員、付近の住民など 650 人が避難した（3月 12 日）

がれきに覆われた住宅街

中野小学校周辺

津波に飲み込まれた交通局岡田出張所

仙台東部道路付近

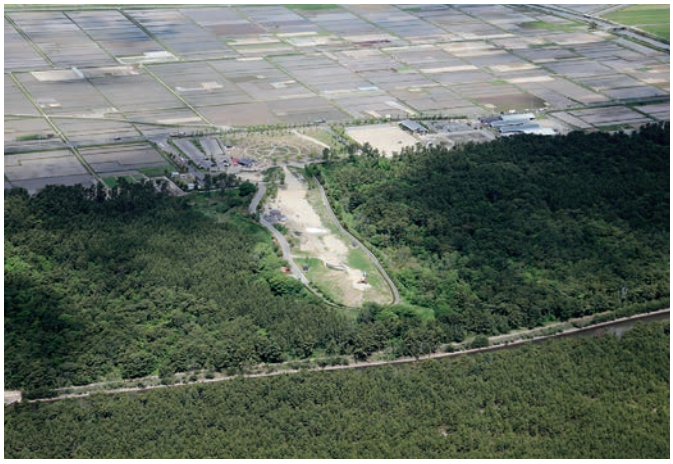
がれきに覆われた宮城野区中野の住宅街

荒浜小学校１階の教室に、津波の勢いで押し込められた車

荒浜小学校体育館

震災前の東部沿岸地域（平成 16 年５月）

震災前の東部沿岸地域（平成 16 年５月）



海岸公園冒険広場（平成 16 年５月）

海岸公園冒険広場（若林区井土、3月 18 日）。広場内の展望台に避難した５人の命が救われた

若林区藤塚地区。右手に貞山堀が延びる（3月 18 日）

仙台塩釜港（3月 18 日）

若林区荒浜地区。海岸付近から内陸部を望んだところ。中央右寄りの白い建物が荒浜小学校。海岸の松は、津波によりほとんどなぎ倒されている（3月 18 日）

散乱するコンテナ（仙台塩釜港）

辺り一体ががれきと化した

打ち上げられた大型船（仙台塩釜港）

宮城野区蒲生地区。左側に七北田川（3月 18 日）

若林区井土地区。中央は県道塩釜亘理線（3月 18 日）

がれきが散乱する荒浜地区の水田（4月4日）

宮城野区蒲生地区（4月6日）

若林区藤塚地区

岡田出張所付近の道路で、津波により被災したバス車両（3月 16 日）

郊外丘陵部の宅地被害（青葉区西花苑）

宮城野区岩切（県民の森）

太白区青山二丁目の宅地被害（3月 26 日）

太白区向山の鹿落坂では家屋倒壊の被害があった

若林区遠見塚三丁目霞目の歩道橋では、階段部分が落下（3月 13 日）

泉区館一丁目付近（3月 12 日）

七北田川橋りょう（橋脚）の損傷状況

地震により損壊したビル

発災直後の市民の様子

JR 仙台駅前のバス停（3月 11 日）

地震発生直後の太白区役所前

宮城野区役所前の JR 陸前原ノ町駅前に避難する地域住民

太白区役所窓口で眠る避難者（3月 13 日）

太白区役所 1 階ロビー

宮城野区役所ロビーで休む避難者

携帯電話の電源を求めて（3月 12 日宮城野区役所）

地下鉄泉中央駅では台原方面の無料シャトルバスを待つ長い行列ができた（3月 25 日）

ガソリンを求める長蛇の車列。渋滞の原因となり緊急車両や工事作業車の妨げとなった

スーパーマーケットの入場制限に順番を待つ人々

救出活動

消防団に誘導され、一本のロープにつかまって荒浜小学校から避難する人々

消防団に誘導され、一本のロープにつかまって荒浜小学校から避難する人々

海水により冠水した農地を検索する消防隊（3月 20 日）

中野小学校近くの火災現場からヘリコプターで救助

荒浜に到着した救援のヘリコプター

津波で流された車両の検索救助活動（4月 24 日）

アルミボートを使用した検索救助活動（4月 18 日）

倒壊家屋での検索救助活動（4月 16 日）

DMAT（災害派遣医療チーム）と消防隊の共同活動

荒浜小学校屋上からの救助

市役所内に設けられた自衛隊第 22 普通科連隊指揮所

避難所での炊き出し

避難所での演奏活動

新港コンビナート地区の道路整備

荒浜の海岸を捜索

医療支援の動き

現場から宮城野消防署高砂分署へ戻る車両（3月 13 日）

災害時に役立つのは現場の英知と迅速な判断

3月 12 日から宮城県庁前に日本赤十字社が設置したテント

患者の情報をホワイトボードに記録して対応

DMAT と連携して診療にあたる仙台市立病院スタッフ（3月 12 日）

仙台市立病院での重傷救急患者の処置（3月 12 日）

避難所の様子

長町小学校の避難所（3月 16 日）

沿岸部に近い岡田小学校にも多くの方が避難した（3月 23 日）

軽体操をする七郷中学校の避難者（3月 22 日）

発災当日夜の高砂保育所

児童館への避難

天皇、皇后両陛下の被災地ご訪問

天皇、皇后両陛下の被災地ご訪問

天皇、皇后両陛下の被災地ご訪問

天皇、皇后両陛下の被災地ご訪問

七郷小学校を訪問し、被災者の要望を聞き取る（3月 23 日市長避難所訪問）

七郷小学校で避難された方を励ます（3月 23 日市長避難所訪問）

給水を待つ長い列

長町小学校に設けられた掲示板（3月 16 日）

若林区保健福祉センターでのミーティング

支援物資の配送

物資集配拠点となった宮城県消防学校での物資の搬入搬出

宮城県消防学校（物資集配拠点）に搬入された支援物資（3月 13 日）

支援物資の配送内容を確認する自衛隊員（3月 18 日）

宮城県消防学校（物資集配拠点）

物資集配拠点から周辺自治体へも支援物資が届けられた

ライフライン復旧活動

変電所の被災（宮城野区）

仙台変電所復旧作業

懸命に続けられた電力復旧活動

倒壊した鉄塔

応急給水活動

雪の中で懸命に続けられる水道復旧作業（３月 17 日、泉区南光台）

発災直後のガス局港工場

12月9日時点のガス局港工場

耐震性の高いガス導管（ポリエチレン製）への入れ替え工事

全国から駆け付けた JGA 復旧隊

８カ月ぶりに入港したＬＮＧ船「アマン センダイ」

入港セレモニー

地震により路面より突出したマンホール

六郷小学校に３月 15 日に設置された特設公衆電話

若林区役所に３月 12 日に設置された特設公衆電話

九州大分から応援に来た衛星通信移動無線車

南蒲生浄化センター最終沈殿池

南蒲生浄化センターでの最終沈殿池の復旧（清掃）作業（４月 21 日）

市内約 71 万６千人分の汚水処理を担う南蒲生浄化センターは、発災翌日以降も全力で復旧作業にあたった。写真は放流ゲートのがれき撤去作業（３月 16 日）

がれきの撤去、震災廃棄物の処理、原発対応

がれき搬入場（若林区井土）

がれきの破砕

仮設焼却炉（若林区荒浜）

冷蔵庫の保管状況

金属の保管状況

被災自動車の保管状況

津波により濡れたごみの収集

津波がれきの撤去

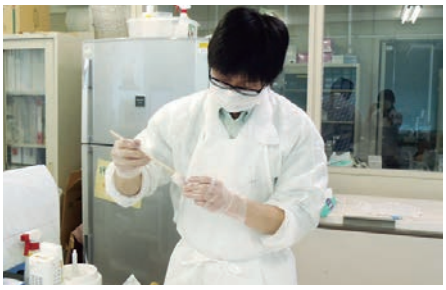
損壊家屋の解体・撤去

横浜市からの応援

被災自動車の撤去

ビルの解体・撤去

放射線測定の様子（岡田小学校）



水産物の放射性物質検査（食品監視センター）

水産物の放射性物質検査（食品監視センター）

応急仮設住宅、市民の生活再建の動き

あすと長町 38 街区仮設住宅

スロープを付け、暮らしやすさに配慮

荒井土地区画整理事業小学校用地仮設住宅

花の手入れをする住民

福田町南一丁目公園仮設住宅に設けられた共有スペース「みんなの家」

プレハブ仮設住宅には、市の方針として町内会などコミュニティー単位での入居を推進

福田町南一丁目公園仮設住宅

寒さが厳しくなる前に急がれる断熱材追加工事（12 月 5 日）

り災証明申請手続きを待つ市民（宮城野区役所）

市役所本庁舎８階ホールに設けられた被災者支援相談窓口

国内外から寄せられた応援

仙台空港に飾られた羽田空港からの応援メッセージ

阪神・淡路大震災を経験した神戸市からも応援メッセージが届いた（3月 26 日）

福原愛さんらオリンピック日本代表選手が、市民と交流した「オリンピックデー・フェスタ in 仙台」（10 月 10 日）

兵庫県からの応援メッセージ

ASIMO の特別授業

避難所となっていた蒲町中学校を訪れた荒川静香さん（4月6日）

応援メッセージの寄せ書き（リバサイド市内にて、3月 29 日）

レンヌ市役所前での支援活動（3月 19 日）

光州広域市からの支援物資（3月 17 日）

高橋尚子さんなどアスリートによる「チームニッポン」も応援に駆けつけた

飼料の袋には「頑張れ！八木山」「元気出して！一緒に頑張ろう」など、手書きのメッセージが。激励の寄せ書きや職員用の支援物資も一緒に届いた

慰霊祭、追悼式などの追悼イベント

東日本大震災仙台市慰霊祭（平成 23 年7月 11 日）

東日本大震災仙台市慰霊祭

東日本大震災仙台市慰霊祭

東日本大震災仙台市慰霊祭

東日本大震災仙台市慰霊祭

東日本大震災仙台市追悼式（平成 24 年3月 11 日）

東日本大震災仙台市追悼式

ビルに写しだされた「絆」、キャンドルで作った「ありがとう」。仙台青年会議所主催のキャンドルナイト

仙台青年会議所主催のキャンドルナイト

仙台青年会議所主催のキャンドルナイト

祭り

仙台七夕まつり

七夕飾りに復興への祈りを込めて

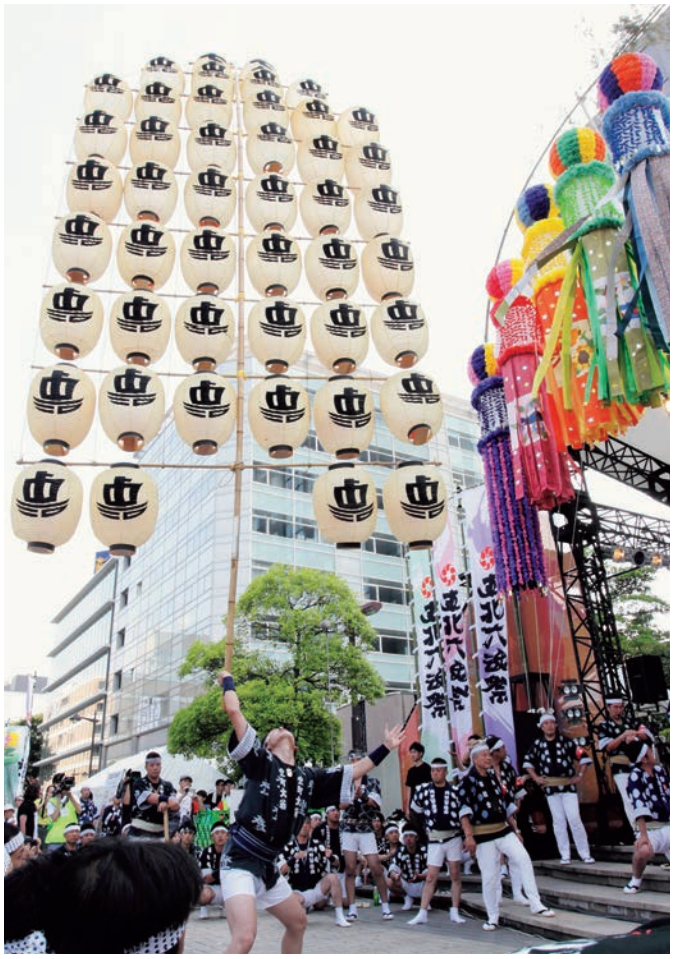
仙台七夕まつりは３日間で 203 万人の人出でにぎわった

平成 23 年の仙台七夕まつりは「復興と鎮魂」をテーマに開催

京都・祇園祭が仙台七夕まつりに参加し、復興を支援

東北六魂祭での青森ねぶた祭

東北の県庁所在地である青森市・盛岡市・秋田市・山形市・福島市、そして仙台市の夏祭りが一堂に会した「東北六魂祭」。平成23年7月16日から2日間にわたり、延べ36万人にものぼる来場者を記録し、東北復興ののろしを上げた



東北六魂祭での秋田竿燈まつり

盛岡さんさ踊り

東北六魂祭での山形花笠まつり

東北六魂祭を盛り上げる仙台すずめ踊り

福島わらじ祭り

東北６大祭の競演に、大勢の見物客が集まった（東北六魂祭）

電球が津波で流されて開催が危ぶまれた SENDAI 光のページェント。全国からの支援で希望の灯りがともった

第 21 回定禅寺ストリートジャズフェスティバルには、全国から 746 バンドが集まった

仙台初売りでにぎわう東一番町（平成 24 年１月２日）

流通、農業の復興

農地の被災状況調査（3月 23 日）

5月下旬、六郷と七郷地区の一部で田植えが行われ、9月下旬には無事収穫が行われた

5月下旬、六郷と七郷地区の一部で田植えが行われ、9月下旬には無事収穫が行われた

平成 24 年1月5日に行われた食肉市場の業務開始式

震災を乗り越え、業務を続けた中央卸売市場。10月には、開設 50 年の節目を祝い、市場まつりが開催された

6月8日、震災発生後初めて、仙台塩釜港からコンテナ船が北米に向けて出航した

プロスポーツ

本拠地のユアテックスタジアム仙台が早期に復旧、４月 29 日にホーム開幕を迎えた

開幕に向け練習調整に励む一方、ボランティアとしても積極的に活動を行った。写真は３月 30 日、若林区にて

被災地訪問や募金活動などで復興を支えてくれた選手たち

渾身のプレーに、多くの市民が勇気付けられた

震災によりシーズン途中で活動休止に追い込まれながらも、翌シーズンからリーグに復帰。10 月 29 日にホーム開幕を迎え、5,000 人を超えるブースター（ファン）が声援を送った

３月 25 日に蒲町中学校を訪れた 89 ＥＲＳの選手。選手から受け取った黄色のシャツを着た子どもたちは、選手とともに久しぶりの運動を楽しんだ

蒲町中学校を間借りして授業を行う蒲町小学校（２～４年生は体育館を使用）

登校時にごみを拾い、地域を清掃する子どもたち

地域住民の方々とともにあいさつ運動。活動を通して復興に向けた思いを１つにした

校舎が損壊した七郷中学校では体育館で授業を実施

南光台小学校は、南光台コミュニティ・センターなどで授業を行った

折立中学校を間借りしている折立小学校で、再開された給食を食べる子どもたち（5月 24 日）

仙台市内の小・中学校等の児童生徒が、復興への願いを込めて１人１羽ずつ作った折り鶴、総計８万羽。これを保護者と教師たちが協力してつなぎ合わせ、仙台七夕まつりを彩った。

発災から約１年となる３月上旬、仙台市中心部の商店街に、市立小・中学校の児童生徒が復興に向けてのメッセージをつづった応援旗 189 枚が掲示された。

８万人の児童生徒が団結し復興に向けて何ができるのかを話し合う「故郷復興サミット」。７月に各小・中学校の代表が集まった。